

8-1 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (2004年11月～2005年4月)
Seismic Activity in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku Districts(November
2004 - April 2005)

気象庁・大阪管区気象台
Osaka District Meteorological Observatory, JMA

今期間、近畿・中国・四国地方とその周辺で M4.0 以上の地震は 36 回 (そのうち 17 回は紀伊半島南東沖・東海道沖の地震の余震)、M5.0 以上は 1 回発生した。このうち最大は、2005 年 2 月 22 日に東海道沖で発生した M5.4 であった。

2004 年 11 月～2005 年 4 月の M4.0 以上の震央分布を第 1 図に示す。

主な地震活動は次の通りである (第 2～4 図)。

2004 年

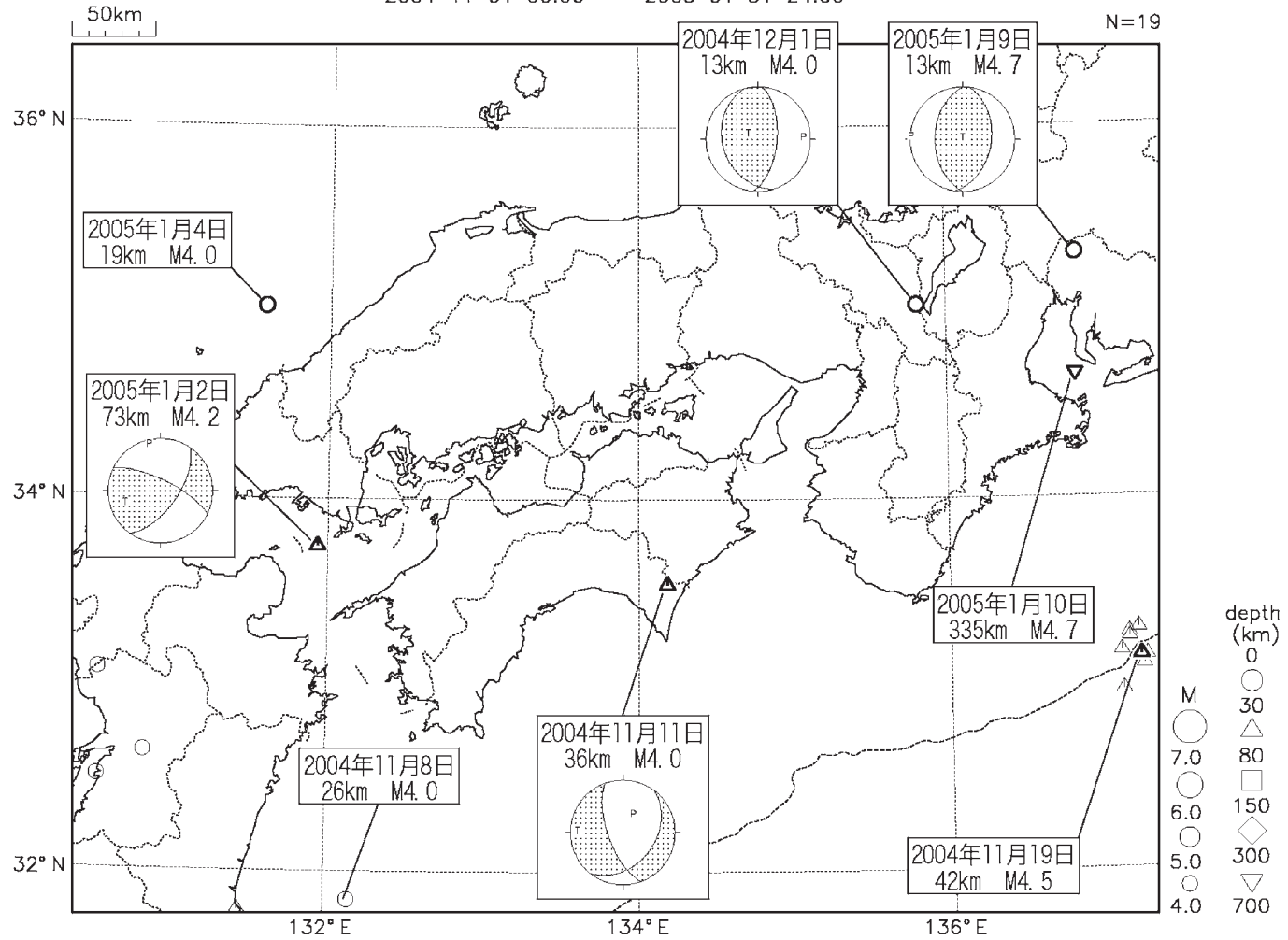
月日	震央地名	規模 (M)	深さ (km)	最大震度
12 月 1 日	京都府南部	4.0	13	3 (第 2 図)
12 月 2 日	兵庫県北部	3.4	9	2 (第 3 図)

2005 年

月日	震央地名	規模 (M)	深さ (km)	最大震度
2 月 14 日	兵庫県南東部	4.1	13	3 (第 4 図)

近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (2004年11月~2005年1月、M \geq 4.0)

2004 11 01 00:00 -- 2005 01 31 24:00



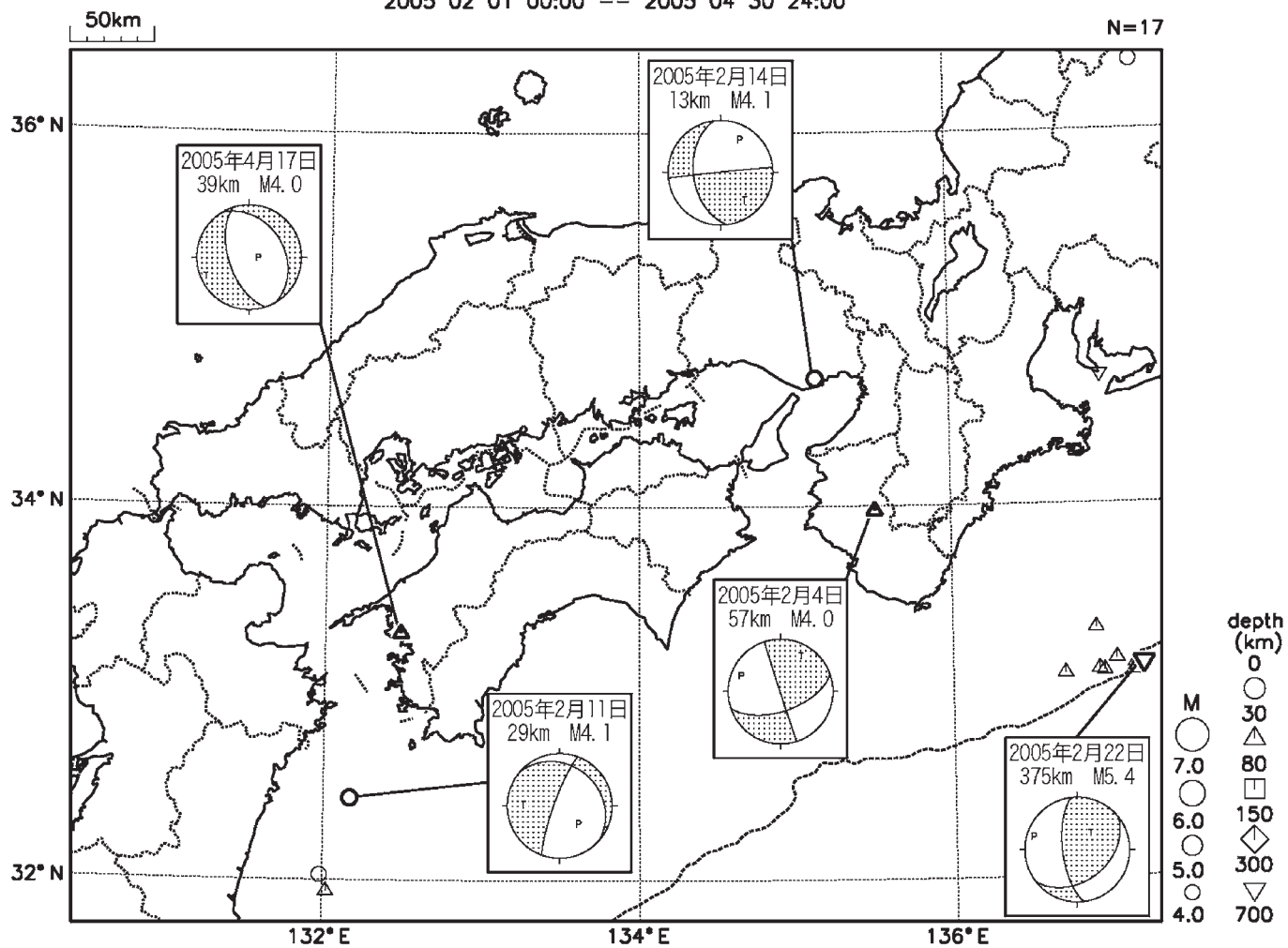
図中の吹き出しは、M4.0以上

第1図(a) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (2004年11月~2005年1月, M \geq 4.0, 深さ \leq 700 km)

Fig.1 (a) Seismic Activity in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku districts (November 2004 - January 2005, M \geq 4.0, depth \leq 700 km).

近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (2005年2月~4月、 $M \geq 4.0$)

2005 02 01 00:00 -- 2005 04 30 24:00



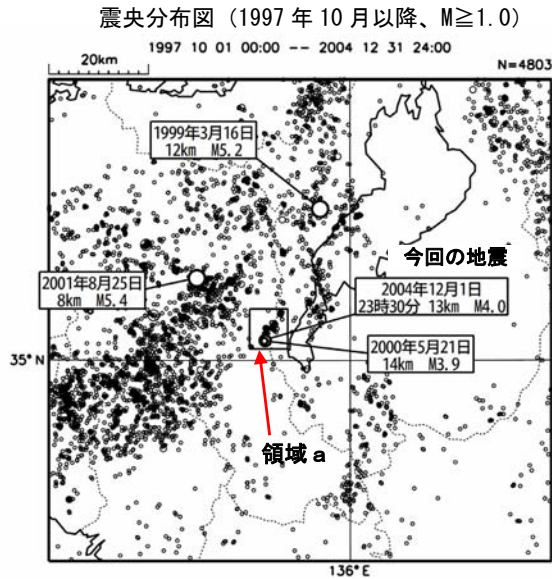
図中の吹き出しは、 $M4.0$ 以上

気象庁作成
(大阪管区気象台)

第1図(b) つづき (2005年2月~4月, $M \geq 4.0$, 深さ ≤ 700 km)

Fig.1 (b) continued (February - April 2005, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km).

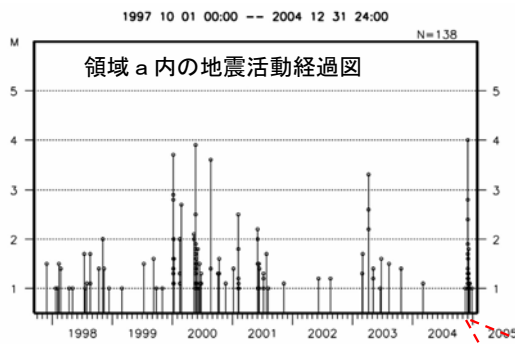
12月1日 京都府南部の地震



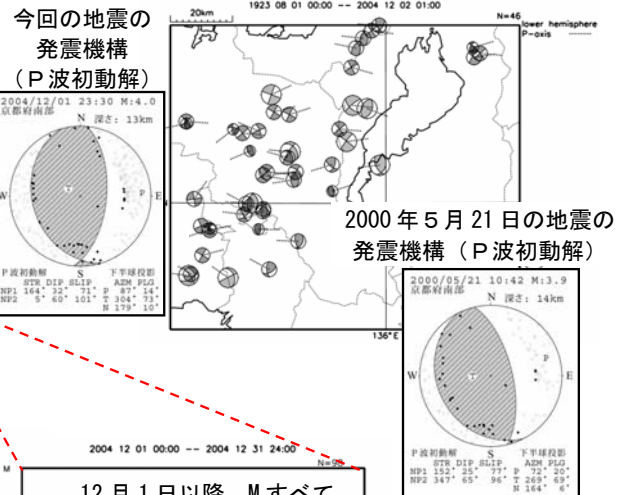
2004年12月1日23時30分に京都府南部の深さ13kmでM4.0(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、圧力軸の方向はこの付近の地震によく見られる。余震活動は活発な状態が半日程度続いたが、その後は減衰し10日程度でほぼ収まった。今回の地震の付近には、クラスタ状の地震活動域(領域a)があり、2000年5月21日にもM3.9の地震が発生している。

1923年8月以降の活動を見ると、この付近(領域b)では、1968年8月27日のM4.9の地震が最大である。

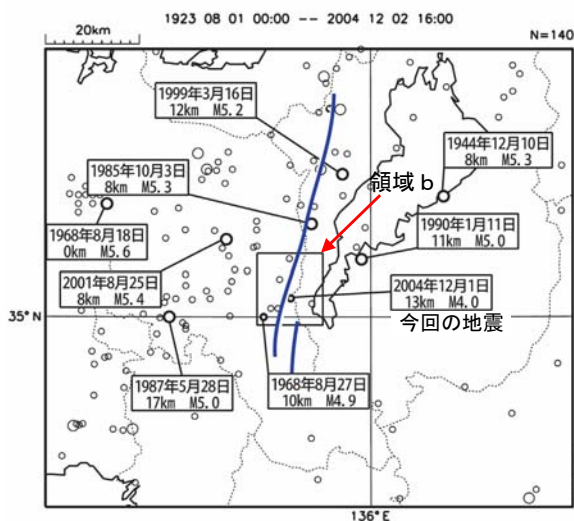
今回の地震は花折断層帯の南部付近で発生した。断層帯の北部・中部を構成する花折断層は右横ずれであるが、南部には逆断層があり、今回の地震はそれと調和的である。



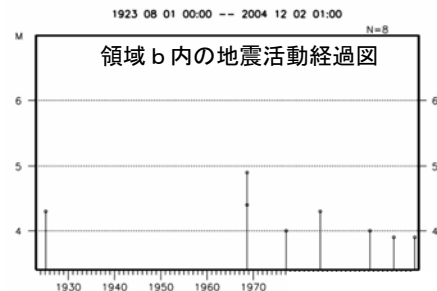
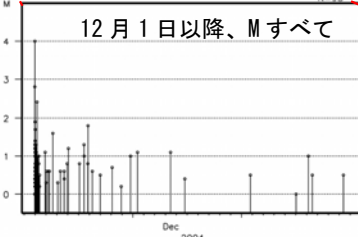
発震機構分布図 (P波初動解、深さ30km以浅)



震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 3.9$)



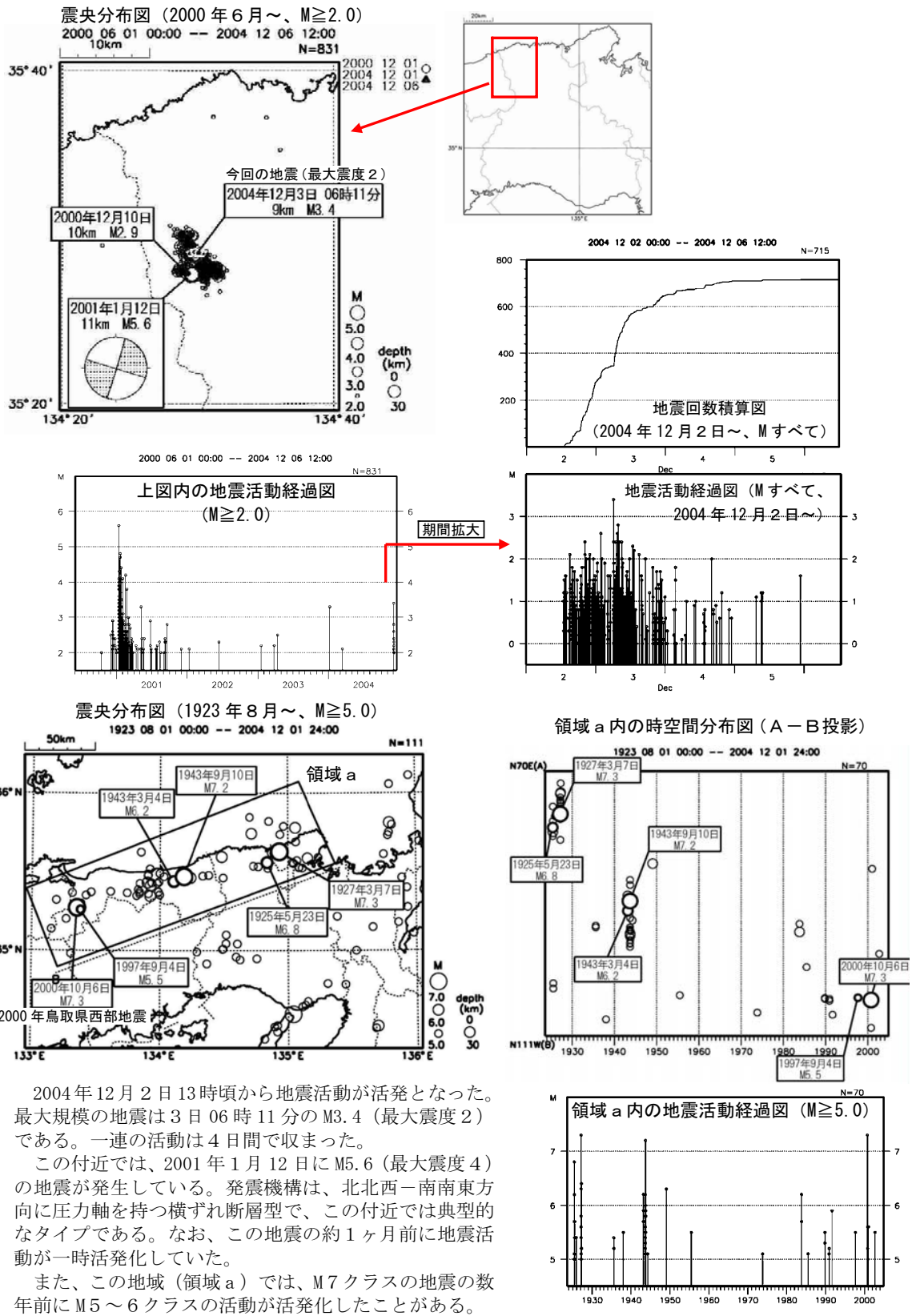
/: 花折断層帯の地上トレース (地震調査委員会による)



第2図 京都府南部の地震活動

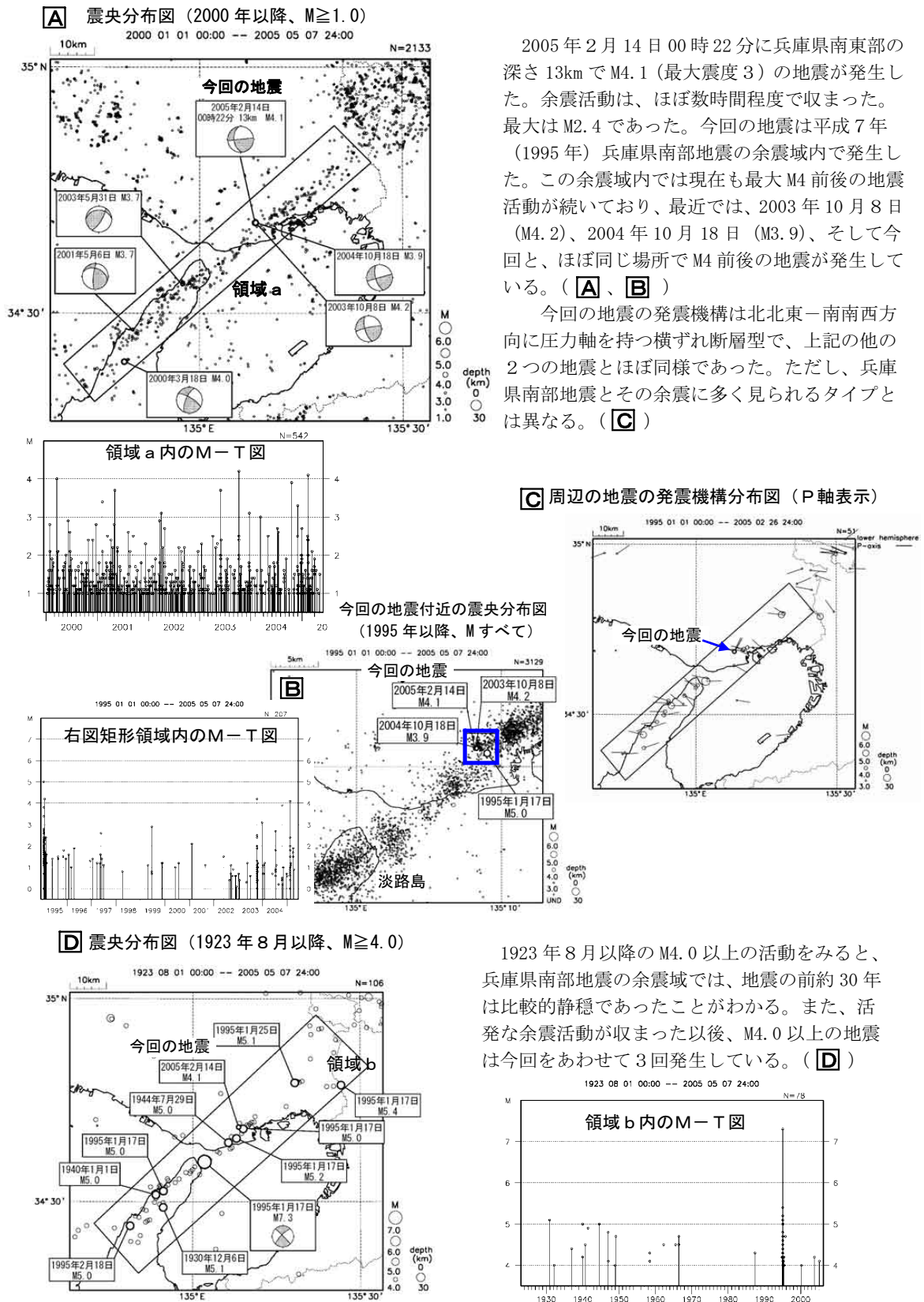
Fig.2 Seismic activity in the southern part of Kyoto prefecture.

12月2日 兵庫県北部の地震活動



第3図 兵庫県北部の地震活動
 Fig.3 Seismic activity in the northern part of Hyogo prefecture.

2月14日 兵庫県南東部の地震



2005年2月14日00時22分に兵庫県南東部の深さ13kmでM4.1(最大震度3)の地震が発生した。余震活動は、ほぼ数時間程度で収まった。最大はM2.4であった。今回の地震は平成7年(1995年)兵庫県南部地震の余震域内で発生した。この余震域内では現在も最大M4前後の地震活動が続いており、最近では、2003年10月8日(M4.2)、2004年10月18日(M3.9)、そして今回と、ほぼ同じ場所でM4前後の地震が発生している。(A、B)

今回の地震の発震機構は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、上記の他の2つの地震とほぼ同様であった。ただし、兵庫県南部地震とその余震に多く見られるタイプとは異なる。(C)

C 周辺の地震の発震機構分布図 (P軸表示)

1923年8月以降のM4.0以上の活動をみると、兵庫県南部地震の余震域では、地震の前約30年は比較的静穏であったことがわかる。また、活発な余震活動が収まった以後、M4.0以上の地震は今回を合わせて3回発生している。(D)

第4図 兵庫県南東部の地震活動

Fig.4 Seismic activity in the southeastern part of Hyogo prefecture.